2029

高齢者介護

Support Aid for Standing and Walking (Tool for the Aged)

AD34 安田 康平
指導教員 竹内 明

1. 研究目的

祖父が入院したことをきっかけに、祖母が私の家で一緒に生活するようになった。「介護問題」に直面した我が家で、家庭内介護の実態や問題点が少しずつ見えてきた。【介護をされる側】と【介護する側】の双方の側面から、高齢者介護の研究をスタートした。

2. 調査と分析

(1)祖母の観察

・90歳の祖母は、寝室とトイレの間のような短距離なら自力で移動可能。
・ちょっとした段差や障害物でも危険で心配。
・壁やソファーなどに手をつきながら移動する。多くは不安定な場所に体重をかけており危険。

(2)現状使用されている補助具についての調査

・介護施設にある大型の補助具は安定して移動できるが、広い場所に限られてしまう。
・補助具でよく使われるものとして杖があるが、観察や自分で使用してみて、細長く円柱なので置きにくく、何かの拍子に置いていた杖が倒れてしまう。

3. コンセプトの立案

＜屋内の短距離移動のための歩行補助具＞
【介護をされる側】ができる範囲で自立することが【介護する側】の負担を減らすことにつながると考えた。

4. デザイン展開

コンセプトに基づいた提案をするにあたり、以下の2点に留意した。
・任意の場所に【手すり】のように、安定感を保ちながら移動できる【ハンディーな補助具】であること。
・接地面が不安定であっても、滑り止めに安定して使える物。

このような提案物を作るにあたり、祖母が使いやすいような形状や持ち方について検証を行った。

(1)持ち手の形状

・祖母の手より少し大きめのサイズ、小さめのサイズ、指の関節に合わせて起伏のある物など22種類ほどの持ち手を制作し検証した。
・全体的に角のなく、丸みを帯びた形状が握りやすいとのことだった。

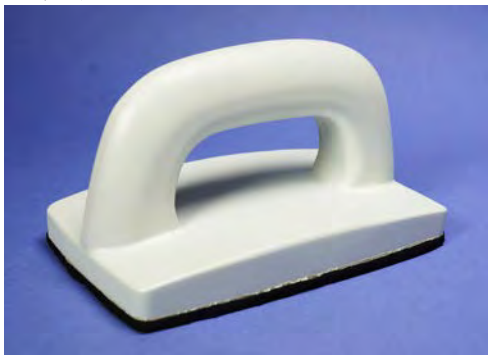
(2)持ち手の角度や高さ

・角度がついたほうが持ちやすくなると考え、約45°、約30°の試作品を製作したが、「どの向きで使えばいいかわからなくなってしまう」ため水平のほうが使いやすい、とのことであった。

(3)滑り止めの材料

・滑り止めマットや耐震ジェルなどで試作検証。
・色々な場所や形状に対応できるようスポンジのような柔軟性のある素材を使用することとした。

5. 完成図



6. 結論

・使用してもらった結果、「歩く際に指でささえるより安定するが、置き方に慣れるまで少しコツが必要そう」という意見が出た。
・本来想定していた使い方ではなかったが、座っている状態から立ち上がる時と、座りたい場所へ座ろうとする時に本提案を使用すると楽である、と好評を得た。
・自分が使いやすいのではと考えた形状と、実際に使ってもらい、使いやすいと反応が返ってきたものが違うことが多く、検証の重要性を感じた。

文 献

[1]「お年寄りの生活をつくる介護用品―理学療法士が選んだ、安心・便利な福祉用具」
岡田しげひこ，三好春樹（著） 雲母書房